

定期作況報告

平成17年11月
(11月20日現在・最終)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

- 4月:** 上旬の最高気温は平年より低く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや低かった。中旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年よりやや低かった。下旬の最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや低かった。日平均気温の月平均は3.4℃で平年より1.2℃低かった。降水量は上旬、下旬は平年よりやや多く、中旬は平年より少なかった（月合計63.5mmで平年の138%）。日照時間は上旬は平年よりやや少なく、中旬は平年よりやや多く、下旬は平年並であった（月合計144.4時間で平年の94%）。
- 5月:** 上旬の最高気温・平均気温は平年より極めて低く、最低気温は平年より低かった。中旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年より極めて低かった。下旬の最高気温、最低気温、平均気温とも平年よりやや低かった。日平均気温の月平均は7.8℃で平年より2.8℃低かった。降水量は上旬は平年並、中旬・下旬は平年よりやや少なかった。（月合計42.5mmで平年の66%）。日照時間は上旬は平年より少なく、中旬は平年より多く、下旬は平年並であった（月合計138.2時間で平年の97%）。
- 6月:** 上旬の最高気温、最低気温、平均気温は平年より高かった。中旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温は平年よりやや高かった。下旬の最高気温、平均気温は平年より極めて高く、最低気温は平年より高かった。降水量は上旬、下旬は平年より少なく、中旬は平年より多かった（月合計48.5mmで平年の37.8%）。日照時間は上旬は平年並で、中旬は平年より多く、下旬は平年よりやや多かった（月合計162.4時間で平年の123%）。
- 7月:** 上旬の最高気温は平年より低く、最低気温、平均気温は平年よりやや低かった。中旬の最高気温は高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。下旬の最高気温、最低気温、平均気温は平年に比べてやや低かった。降水量は上旬は平年よりやや少なく、中旬は平年より少なく、下旬は平年より極めて多かった（月合計156.5mm、平年の127%）。日照時間は上旬は平年並で、中旬は平年より多く、下旬は平年よりやや少なかった（月合計109.6時間で平年の102%）。
- 8月:** 上旬の最高気温、最低気温、平均気温は平年に比べて極めて高かった。中旬の最高気温、平均気温、最低気温は平年に比べて極めて高かった。下旬の最高気温、最低気温、平均気温は平年並であった。降水量は上旬・中旬は平年より少なく、下旬は多かった（月合計100.0mmで平年の98.9%）。日照時間は上旬・下旬は平年よりやや多く、中旬は平年並であった（月合計152.7時間で平年の123%）。
- 9月:** 上旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや高かった。中旬の最高気温は平年より高く、最低気温は平年よりやや高く、平均気温は平年より高かった。下旬の最高気温、最低気温、平均気温とも平年並であった。降水量は上旬は平年より極めて多く、中旬・下旬は平年より少なかった（月合計145.5mmで平年の113%）。日照時間は上旬・中旬は平年よりやや多く、下旬は平年並であった（月合計159時間で平年の121%）。
- 10月:** 上旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや高かった。中旬の最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて高かった。下旬の最高気温・最

低気温・平均気温は平年よりやや高かった。降水量は上旬・中旬は平年より少なく、下旬は平年並であった（月合計25.5mmで平年の37%）。日照時間は上旬・中旬は平年よりやや多く、下旬は平年並であった（月合計179.2時間で平年の120%）。

11月：上旬の最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて高かった。中旬は最高気温・最低気温、平均気温とも平年並であった。降水量は上旬は平年より極めて多く、中旬は平年やや少なかった。日照時間は上旬は平年よりやや多く、中旬は平年並であった。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

農耕期間中（5月～9月）の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

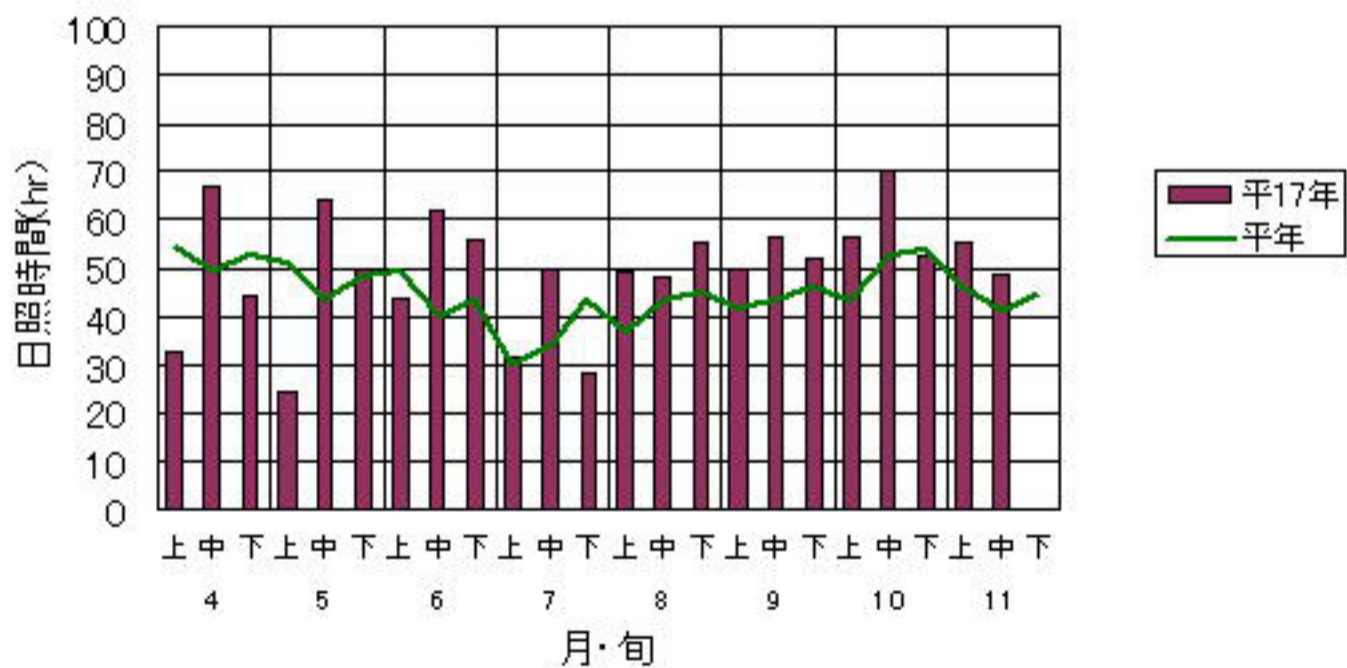
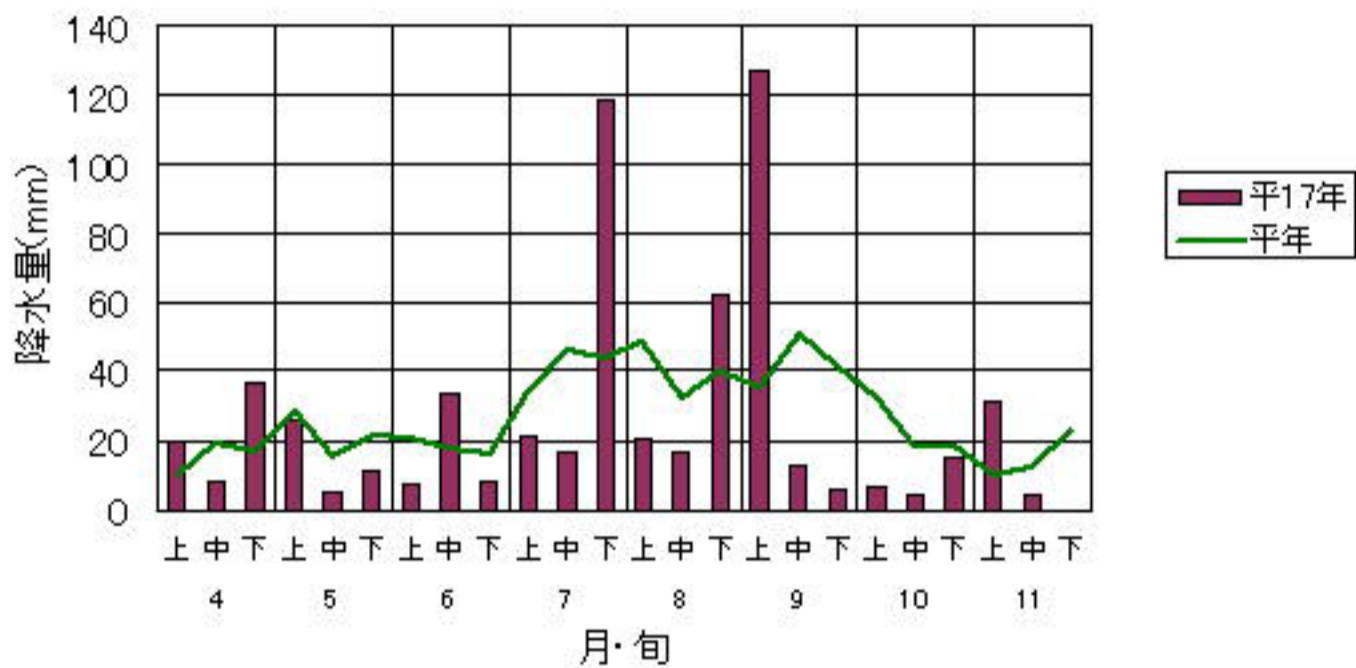
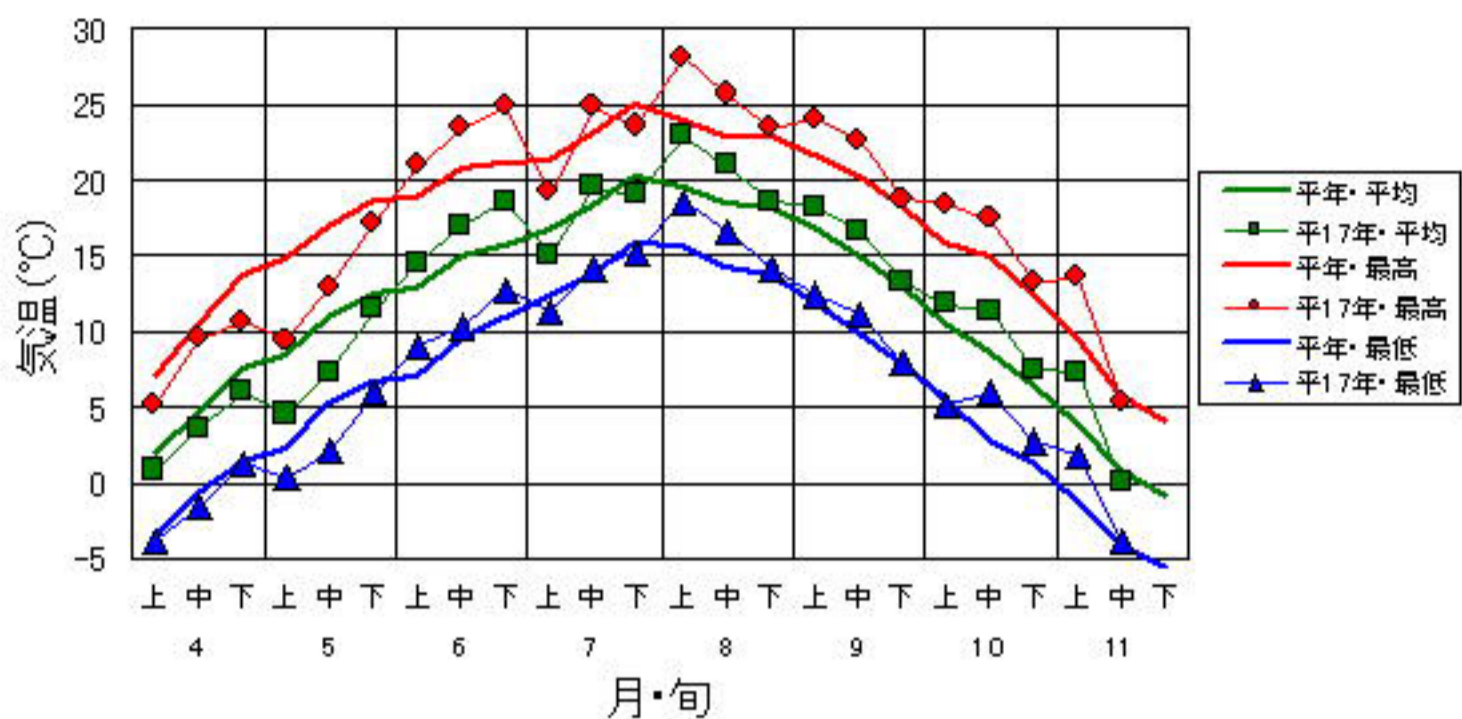
気温：5月は平年より極めて低く、6月は平年より高く、7月は平年並、8月は平年より高く、9月は平年よりやや高かった。この期間の平均気温の積算値は2422.8℃で、平年より69.1℃高かった。

降水量：7月は平年よりやや多く、6月・8月・9月は平年並で、5月は平年よりやや少なかった。この期間の降水量の積算は493.0mmで、平年より2.9mm多かった。

日照時間：6月・8月・9月・10月は平年よりやや多く、5月・7月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は721.9時間で、平年より85.6時間多かった。

以上のことから、本年の農耕期間中の気象は、気温、降水量は平年並、日照時間はやや多かった。

2. 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3. 気象表

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる。平年値は前10か年の平均値である。

月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
4	上	0.9	1.9	△ 1.0	5.2	7.0	△ 1.8	-3.9	-3.5	△ 0.4	19.5	9.9	9.6	33.0	54.1	△ 21.1
	中	3.5	4.5	△ 1.0	9.5	10.2	△ 0.7	-1.6	-0.9	△ 0.7	7.5	19.1	△ 11.6	66.9	49.3	17.6
	下	6.0	7.4	△ 1.4	10.7	13.7	△ 3.0	1.2	1.2	0.0	36.5	17.1	19.4	44.5	52.5	△ 8.0
5	上	4.5	8.4	△ 3.9	9.3	14.6	△ 5.3	0.4	2.3	△ 1.9	26.0	28.0	△ 2.0	24.2	50.9	△ 26.7
	中	7.3	10.9	△ 3.6	12.9	16.9	△ 4.0	2.2	5.1	△ 2.9	5.0	15.1	△ 10.1	64.1	42.9	21.2
	下	11.4	12.5	△ 1.1	17.1	18.6	△ 1.5	5.9	6.6	△ 0.7	11.5	21.4	△ 9.9	49.9	48.0	1.9
6	上	14.6	12.8	1.8	21.0	18.7	2.3	9.1	7.0	2.1	7.0	20.8	△ 13.8	43.8	49.0	△ 5.2
	中	16.9	14.8	2.1	23.4	20.6	2.8	10.3	9.5	0.8	33.0	18.0	15.0	62.3	40.1	22.2
	下	18.6	15.7	2.9	24.9	21.1	3.8	12.8	10.8	2.0	8.5	15.7	△ 7.2	56.3	43.1	13.2
7	上	15.1	16.6	△ 1.5	19.2	21.2	△ 2.0	11.3	12.3	△ 1.0	21.5	33.5	△ 12.0	31.6	29.9	1.7
	中	19.5	18.2	1.3	24.9	23.0	1.9	14.2	13.8	0.4	16.0	45.8	△ 29.8	49.9	34.0	15.9
	下	19.1	20.1	△ 1.0	23.5	24.9	△ 1.4	15.2	15.8	△ 0.6	119.0	44.0	75.0	28.1	43.1	△ 15.0
8	上	22.8	19.5	3.3	28.1	23.9	4.2	18.6	15.6	3.0	20.5	47.8	△ 27.3	49.6	36.5	13.1
	中	21.0	18.4	2.6	25.6	23.0	2.6	16.7	14.2	2.5	17.0	32.2	△ 15.2	47.9	42.7	5.2
	下	18.5	18.1	0.4	23.4	22.8	0.6	14.2	13.7	0.5	62.5	39.7	22.8	55.2	44.9	10.3
9	上	18.2	16.7	1.5	24.1	21.6	2.5	12.4	12.0	0.4	127.5	35.5	92.0	50.1	41.4	8.7
	中	16.6	14.9	1.7	22.5	20.2	2.3	11.2	9.9	1.3	12.5	51.2	△ 38.7	56.8	43.6	13.2
	下	13.3	12.8	0.5	18.7	18.2	0.5	7.9	7.9	0.0	5.5	41.9	△ 36.4	52.1	46.2	5.9
10	上	11.8	10.5	1.3	18.4	15.9	2.5	5.1	5.5	△ 0.4	6.5	31.9	△ 25.4	56.7	42.9	13.8
	中	11.2	8.6	2.6	17.3	14.8	2.5	6.0	2.8	3.2	4.0	18.5	△ 14.5	70.0	52.5	17.5
	下	7.4	6.5	0.9	13.2	12.4	0.8	2.7	1.3	1.4	15.0	18.5	△ 3.5	52.5	53.3	△ 0.8
11	上	7.3	3.8	3.5	13.6	9.3	4.3	1.8	-1.3	3.1	31.0	9.8	21.2	55.2	46.1	9.1
	中	-0.1	0.8	△ 0.9	5.3	5.9	△ 0.6	-3.8	-4.2	0.4	4.5	11.8	△ 7.3	48.3	41.1	7.2

4. 季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪 期 月日	根雪 期間 日数	耕 鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5～9月)		
										平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
本年	12. 5	4.14	135	4.20	5.10	5.14	10. 7	146	11. 6	2422.8	493.0	721.9
平年	11.26	4.11	133	4.26	4.29	5.16	10.10	145	10.30	2353.7	490.1	636.3
比較	9	3	3	△ 6	11	△ 2	△ 3	1	7	69.1	2.9	85.6

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

2. 当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（平成16年9月播種） 作況：良

事由：播種期はほぼ平年並で、出芽は良好であった。播種後の気温は10月下旬を除き高く推移したため、越冬前の生育は草丈、莖数とも平年を大きく上回った。根雪始は12月5日で平年より9日遅かった。根雪期間中の気温は4月上旬を除き平年より高く推移したが、12月および3月中旬に降雪量が多かったため、融雪期は平年より3日遅い4月14日となり、根雪期間は平年より3日長かった。雪腐病防除後、根雪始までに日数が経過したこともあり、雪腐病の発生は平年よりやや多かった。4月下旬から5月下旬までの低温の影響で、出穂期は平年より5～7日遅れ、この間の莖数は平年並からやや多かったが、草丈は平年より低かった。6月下旬および7月中旬の高温多照で生育は回復したが、7月上中旬の降雨で平年より倒伏の発生が多くなった。収穫期の7月下旬はやや低温で降雨が多く、成熟期は平年より1～4日遅れとなった。登熟期間は平年より1～6日短かったが、登熟期間中は日照時間が多く、登熟は概ね順調であった。穂数、穂長とも平年をやや上回った。千粒重、リットル重ともに概ね平年並からやや重かった。子実重は平年より多収となった。粒の外観品質は平年並からやや劣った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			チホクコムギ			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (平成16年月日)	9.16	9.15	1	9.16	9.16	0	9.16	9.15	1	9.16	9.15	1
出芽期 (平成16年月日)	9.24	9.23	1	9.24	9.24	0	9.24	9.23	1	9.24	9.23	1
出穂期 (平成17年月日)	6.11	6.4	7	6.14	6.9	5	6.17	6.12	5	6.16	6.11	5
成熟期 (平成17年月日)	7.22	7.21	1	7.27	7.23	4	7.30	7.26	4	7.30	7.28	2
草丈(cm) (平成16年11月20日)	25.4	20.3	5.1	25.6	18.2	7.4	25.9	18.9	7.0	26.3	19.3	7.0
草丈(cm) (平成17年5月20日)	33.7	44.5	△ 10.8	36.2	40.9	△ 4.7	32.7	43.0	△ 10.3	35.0	48.1	△ 13.1
草丈(cm) (平成17年6月20日)	98.3	102.8	△ 4.5	91.7	91.5	0.2	82.2	91.1	△ 8.9	91.1	99.6	△ 8.5
莖数(本/m ²) (平成16年11月20日)	2641	1983	658	2239	1475	764	2376	1798	578	2256	1681	575
莖数(本/m ²) (平成17年5月20日)	1378	1317	61	1606	1316	290	1565	1461	104	1344	1402	△ 58
莖数(本/m ²) (平成17年6月20日)	908	864	44	858	730	128	799	801	△ 2	723	730	△ 7
稈長(cm) (成熟期)	90	95	△ 5	86	83	3	82	92	△ 10	92	98	△ 6
穂長(cm) (成熟期)	7.8	7.5	0.3	8.8	8.2	0.6	7.1	7.0	0.1	8.5	8.3	0.2
穂数(本/m ²) (成熟期)	857	819	38	816	694	122	793	722	71	678	629	48
子実重(kg/10a)	662	490	172	854	581	273	634	576	58	656	561	95
同上平年比(%)	135	100	35	147	100	47	110	100	10	117	100	17
リットル重(g)	812	799	13	819	807	12	794	776	18	822	793	29
千粒重(g)	38.0	37.8	0.2	38.3	39.2	△ 0.9	39.1	36.8	2.3	45.6	43.2	2.4
品質(検査等級)	2	1	1	1	1	0	2	2	0	2	2	0

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」、「ホクシン」は平成14年、15年、「チホクコムギ」、「ホロシリコムギ」は平成11年、15年を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

2) 秋まき小麦（平成17年9月播種） 作 況：やや良

事 由：播種期はほぼ平年並で、出芽期は平年より2～3日早かった。播種後の気温が平年より高く推移したため、出芽期以降の生育は良好で、越冬前の生育は草丈、茎数とも平年を上回り、やや過繁茂の状態である。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			チホクコムギ			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (平成17年月日)	9.16	9.15	1	9.16	9.17	△1	9.16	9.16	0	9.16	9.16	0
出芽期 (平成17年月日)	9.22	9.24	△2	9.22	9.25	△3	9.22	9.24	△2	9.22	9.24	△2
草丈(cm) (平成17年11月20日)	23.0	21.9	1.1	23.1	20.0	3.1	24.7	20.4	4.3	23.7	21.1	2.6
茎数(本/m ²) (平成18年11月20日)	2301	2066	235	1896	1615	281	2176	1869	307	2154	1807	347

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」、「ホクシン」は平成14年、15年、「チホクコムギ」、「ホロシリコムギ」は平成11年、15年を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

3) 春まき大麦（二条大麦） 作 況：やや不良

事 由：播種は平年並の5月2日であった。播種後の気温が平年よりも低く経過したため、出芽期は平年より6日遅い5月19日となった。6月の気温は平年を上回り、日照時間も多く、生育は順調に進んだ。しかし、5月中旬までの生育の遅れを取り戻すには至っておらず、6月20日時点での草丈、葉数および茎数は平年をやや下回っていた。播種後は7月下旬の台風による降雨まで干ばつ傾向であり、このため出穂期は平年並であったが、節間伸長が不十分となり稈長は平年を大きく下回った。また、6月下旬と7月中旬の気温は平年を上回り、特に6月下旬は最高気温で4℃も上回った。そのため穂数は分けつの無効化が進み平年を下回った。成熟期は8月5日、登熟日数は32日であり、いずれも平年並であった。倒伏の発生はなく、登熟期間中の日照時間も平年並であったため、登熟は良好であり、千粒重及び整粒歩合は平年を上回った。成熟期における穂長、稈実粒数及び不稈率は平年並であった。しかし、穂数が平年を下回ったため、子実重は平年比96%であった。

以上のことから本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	りょうふう			調査項目	りょうふう			
	本年	平年	比較		本年	平年	比較	
播種期 (月日)	5.2	5.2	0	穂長(cm) (成熟期)	6.4	6.4	0.0	
出芽期 (月日)	5.19	5.13	6	1穂粒数 (成熟期)	21.0	21.2	△0.2	
出穂期 (月日)	7.4	7.4	0	不稈率(%) (成熟期)	1.1	1.1	0.0	
成熟期 (月日)	8.5	8.5	0	倒伏程度 (成熟期)	無	微	-	
草丈(cm)	(5月20日)	3.5	9.0	△5.5	子実重(kg/10a)	336	350	△14
	(6月20日)	33.4	40.5	△7.1	同上平年比(%)	96	100	△4
稈長(cm)	(7月20日)	58	82	△24	リトル重(g)	661	663	△2
	(成熟期)	58	82	△24	千粒重(g)	53.1	47.3	5.8
葉数(枚) (6月20日)	6.6	7.4	△0.8	整粒歩合(%)	98.0	92.6	5.4	
茎数(本/m ²) (6月20日)	845	995	△150	整粒重(kg/10a)	329	329	0	
穂数(本/m ²)	(7月20日)	464	568	△104	同上平年比(%)	100	100	0
	(成熟期)	464	568	△104				

注) 平年値は前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均。

4) 春まき小麦 作 況：やや良

事 由：融雪期は遅れたが、融雪剤を散布した圃場では乾燥が比較的早く、播種は平年より3日早い4月19日に行った。播種後に降雪があり、その後も低温傾向であったため、出芽期は遅れ平年並となった。出芽後も低温が続き、5月は草丈・茎数ともに平年を大きく下回った。6月上旬からは一転して気温が高く推移したため、生育は回復し、出穂期は平年並となった。しかし、6月下旬以降は干ばつ傾向となり、稈長、穂長とも平年より短く、穂数はやや少なくなった。8月上旬の気温が高かったため、成熟期は平年より7日早まった。登熟期間が短くなったが、登熟は概ね良好で、千粒重は平年並となり、リットル重は重く、子実重は平年比110%と多収になった。検査等級は1等であり、平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	ハルユタカ			調査項目	ハルユタカ			
	本年	平年	比較		本年	平年	比較	
播種期 (月日)	4.19	4.22	△ 3	稈長(cm) (成熟期)	74	85	△ 11	
出芽期 (月日)	5.5	5.5	0	穂長(cm) (成熟期)	8.0	8.2	△ 0.2	
出穂期 (月日)	6.24	6.24	365	穂数(本/m) (成熟期)	480	501	△ 21	
成熟期 (月日)	8.5	8.12	△ 7	子実重(kg/10a)	436	395	41	
草丈(cm)	(5月20日)	9.3	17.1	△ 7.8	同上平年比(%)	110	100	10
	(6月20日)	61.3	63.7	△ 2.4	リットル重(g)	832	795	37
茎数(本/m)	(5月20日)	353	443	△ 90	千粒重(g)	40.7	40.2	0.5
	(6月20日)	72.7	67.3	5.4	品質(検査等級)	1	2	

注) 平年値は前7か年中、平成12年、16年を除く5か年平均。

5) とうもろこし 作 況：やや不良

事 由：播種期・出芽期は平年より1～3日遅かったが、6月が高温に経過したことからその後生育は早まり、開花期・抽糸期は平年より2～3日早く、また平年に比べ葉数はやや多く、草丈はやや高く経過した。収穫期は平年より9日早い9月15日であったが、総体の乾物率は平年並であった。平年に比べ稈長は長かったが乾雌穂重割合および有効雌穂割合が低かったため、乾物収量および推定TDN収量の平年比は、それぞれ97%、95%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	ディアHT			調査項目	ディアHT			
	本年	平年	比較		本年	平年	比較	
播種期 (月日)	5.18	5.17	1	生総重(kg/10a)	5722	5880	△ 158	
出芽期 (月日)	6.2	5.30	3	乾物茎葉重(kg/10a)	756	733	23	
開花期 (月日)	8.2	8.4	△ 2	乾物雌穂重(kg/10a)	686	759	△ 73	
抽糸期 (月日)	8.3	8.6	△ 3	乾物総重(kg/10a)	1442	1492	△ 50	
収穫期 (月日)	9.15	9.24	△ 9	同上平年比(%)	97	100	△ 3	
収穫時の熟度	熟期 ～中層	熟期 ～中層	-	推定TDN収量(kg/10a)	1023	1072	△ 49	
草丈(cm)	(6月20日)	35.2	28.4	6.8	同上平年比(%)	95	100	△ 5
	(7月20日)	166.3	124.0	42.3	総体の乾物率(%)	25.2	25.6	△ 0.4
	(8月20日)	271	257	14	乾雌穂重割合(%)	48.4	50.9	△ 2.5
稈長(cm) (収穫期)	236	182	54	有効雌穂割合(%)	98.3	99.7	△ 1.4	

注) 平年値は前7か年のうち平成10年、16年を除く5か年の平均。

推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

6) 大豆 作況：良

事由：平年より4日早い5月20日に播種を行った。5月下旬の気温はやや低かったが、播種後に降雨があり、出芽は平年より5日早く、播種から出芽期までの日数は平年並であった。出芽後～生育初期の気温は概ね平年より高く、生育初期の主茎長、本葉数、分枝数は平年を上回り、開花始は平年より4～6日早かった。開花後の気温も高く登熟は促進され、主茎長、主茎節数はほぼ平年並で推移したが、分枝数、莢数は平年より多かった。登熟期の気温も平年より高く、成熟期は平年より4～5日早く、「トヨコマチ」は9月25日、「トヨホマレ」は10月1日であった。百粒重は「トヨコマチ」、「トヨホマレ」ともに平年より約2割重く、着莢数も「トヨコマチ」は約2割、「トヨホマレ」は約3割多かったことから、子実重は「トヨコマチ」は平年より43%、「トヨホマレ」は38%多かった。子実の品質は、両品種ともに平年よりやや優った。以上のことから今年の作況は「良」である。

調査項目	トヨコマチ			トヨホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月日)	5.20	5.24	△ 4	5.20	5.24	△ 4	
出芽期 (月日)	6.2	6.7	△ 5	6.2	6.7	△ 5	
開花始 (月日)	7.16	7.20	△ 4	7.17	7.23	△ 6	
成熟期 (月日)	9.25	9.30	△ 5	10.1	10.5	△ 4	
	(6月20日)	12.4	10.1	2.3	8.9	7.5	1.4
	(7月20日)	47.6	41.3	6.3	39.2	36.0	3.2
主茎長(cm)	(8月20日)	59.0	61.2	△ 2.2	50.8	58.6	△ 7.8
	(9月20日)	58.8	61.3	△ 2.5	50.2	57.9	△ 7.7
	(成熟期)	58.8	61.3	△ 2.5	50.2	57.9	△ 7.7
本葉数(枚)	(6月20日)	1.2	0.9	0.3	1.1	0.8	0.3
	(7月20日)	7.1	6.4	0.7	7.1	6.4	0.7
	(8月20日)	11.0	11.2	△ 0.2	11.0	11.6	△ 0.6
主節節数	(9月20日)	11.0	11.2	△ 0.2	11.2	11.6	△ 0.4
	(成熟期)	11.0	11.2	△ 0.2	11.2	11.6	△ 0.4
	(7月20日)	6.0	2.6	3.4	4.7	2.2	2.5
分枝数(本/株)	(8月20日)	7.1	5.6	1.5	5.6	4.7	0.9
	(9月20日)	6.4	5.3	1.1	5.3	4.6	0.7
	(成熟期)	6.4	5.3	1.1	5.3	4.6	0.7
着莢数(個/株)	(8月20日)	84.6	69.2	15.4	111.8	74.9	36.9
	(9月20日)	73.9	61.1	12.8	92.7	70.4	22.3
	(成熟期)	73.9	61.1	12.8	92.7	70.4	22.3
子実重(kg/10a)		439	306	133	434	314	120
同上平年比(%)		143	100	43	138	100	38
百粒重(g)		38.0	31.4	6.6	36.6	30.1	6.5
屑粒率(%)		0.7	0.7	0.0	0.5	0.8	△ 0.3
品質(検査等級)		2中	3上	-	2下	3下	-

注) 平年値は、前7か年中平成10年、16年を除く5か年の平均。

7) 小豆 作況：良

事由：平年より2日早い5月20日に播種を行った。5月下旬の気温はやや低かったが、播種後に降雨があり、出芽は平年並～2日早く、播種から出芽期までの日数はほぼ平年並であった。出芽後は高温に推移したことから、開花始は平年より4日早かった。開花以降も概ね高温であり、「サホロショウズ」の主茎長は平年並であったが、「エリモショウズ」の主茎長は平年よりかなり長く、「エリモショウズ」、「サホロショウズ」とともに莢数は多かった。成熟期は「サホロショウズ」は平年並の9月17日、「エリモショウズ」は平年より4日遅い9月28日であった。百粒重は「エリモショウズ」、「サホロショウズ」とともに平年よりやや軽いが、着莢数は両品種とも約2割上回っており、子実重は「エリモショウズ」は平年より26%、「サホロショウズ」は19%多かった。子実の品質は、ほぼ平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	エリモショウズ			サホロショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.20	5.22	△ 2	5.20	5.22	△ 2	
出芽期 (月・日)	6.9	6.9	0	6.7	6.9	△ 2	
開花始 (月・日)	7.21	7.25	△ 4	7.19	7.23	△ 4	
成熟期 (月・日)	9.28	9.24	4	9.17	9.17	0	
主茎長(cm)	(6月20日)	4.5	3.8	0.7	4.0	3.7	0.3
	(7月20日)	13.6	14.8	△ 1.2	13.1	14.1	△ 1.0
	(8月20日)	73.3	55.4	17.9	49.9	46.6	3.3
	(9月20日)	79.7	58.7	21.0	51.2	47.7	3.5
	(成熟期)	79.7	58.8	20.9	51.2	47.7	3.5
本葉数(枚)	(6月20日)	0.3	0.4	△ 0.1	0.4	0.5	△ 0.1
	(7月20日)	5.8	5.3	0.5	5.6	5.2	0.4
主節節数	(8月20日)	14.4	13.1	1.3	12.1	10.9	1.2
	(9月20日)	14.6	13.7	0.9	11.6	11.1	0.5
	(成熟期)	14.6	13.7	0.9	11.6	11.1	0.5
分枝数(本/株)	(7月20日)	1.3	0.9	0.4	2.1	1.3	0.8
	(8月20日)	5.7	4.4	1.3	5.6	4.9	0.7
	(9月20日)	4.8	3.8	1.0	4.2	4.5	△ 0.3
	(成熟期)	4.8	3.8	1.0	4.2	4.5	△ 0.3
着莢数(個/株)	(8月20日)	44.7	33.4	11.3	61.7	46.1	15.6
	(9月20日)	56.0	47.2	8.8	58.0	49.6	8.4
	(成熟期)	56.0	47.0	9.0	58.0	49.6	8.4
子実重(kg/10a)	469	371	98	387	324	63	
同上平年比(%)	126	100	26	119	100	19	
百粒重(g)	14.3	15.5	△ 1.2	14.5	16.1	△ 1.6	
屑粒率(%)	2.9	4.3	△ 1.4	5.2	4.3	0.9	
品質(検査等級)	3下	4上	-	3下	3中	-	

注) 平年値は、前8か年中平成10年、14年および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

8) 菜豆 作況：良

事由：平年より3日早い5月20日に播種を行った。5月下旬の気温はやや低かったが、播種後に降雨があり、出芽は平年より5日早く、播種から出芽期までの日数は平年よりやや短かった。出芽後は概ね高温に推移し、開花始は平年より2～4日早く、生育初期の主茎長は平年並であったが、分枝数は平年を上回った。開花以降も高温であり、主茎長、主茎節数は平年並であったものの、分枝数と着莢数は平年より多かった。成熟期は、「大正金時」は平年より3日早い8月31日、「福勝」は5日早い9月4日であった。百粒重は、「大正金時」は平年よりやや軽かったが、「福勝」は概ね平年並であった。着莢数は「大正金時」は14%、「福勝」は25%平年より多く、子実重は「大正金時」は8%、「福勝」は19%平年より多かった。ただし、北見農試圃場ではインゲン黄化病の発生が多く、約3割の個体に発病が見られた。子実の品質は、ほぼ平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	大正金時			福勝			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.20	5.23	△ 3	5.20	5.23	△ 3	
出芽期 (月・日)	6.4	6.9	△ 5	6.5	6.10	△ 5	
開花始 (月・日)	7.4	7.8	△ 4	7.7	7.9	△ 2	
成熟期 (月・日)	8.31	9.3	△ 3	9.4	9.9	△ 5	
主茎長(cm)	(6月20日)	11.3	9.3	2.0	10.3	8.6	1.7
	(7月20日)	39.9	33.8	6.1	40.1	34.7	5.4
	(8月20日)	41.0	40.1	0.9	44.7	42.4	2.3
	(9月20日)	44.3	41.5	2.8	44.7	44.7	0.0
	(成熟期)	44.3	41.5	2.8	44.7	44.7	0.0
本葉数(枚)	(6月20日)	1.1	0.7	0.4	1.2	0.7	0.5
	(7月20日)	3.5	3.4	0.1	3.9	3.5	0.4
主節節数	(8月20日)	5.4	5.4	0.0	6.0	5.5	0.5
	(9月20日)	5.4	5.4	0.0	5.6	5.5	0.1
	(成熟期)	5.4	5.4	0.0	5.6	5.5	0.1
分枝数(本/株)	(7月20日)	5.3	3.5	1.8	5.1	3.0	2.1
	(8月20日)	5.9	4.1	1.8	5.8	3.5	2.3
	(9月20日)	5.6	3.6	2.0	4.7	3.5	1.2
	(成熟期)	5.6	3.6	2.0	4.7	3.6	1.1
着莢数(個/株)	(8月20日)	25.9	21.2	4.7	24.3	19.7	4.6
	(9月20日)	21.3	18.7	2.6	21.6	17.3	4.3
	(成熟期)	21.3	18.7	2.6	21.6	17.3	4.3
子実重(kg/10a)	322	299	23	392	330	62	
同上平年比(%)	108	100	8	119	100	19	
百粒重(g)	68.0	73.2	△ 5.2	88.1	88.4	△ 0.3	
屑粒率(%)	5.9	3.0	2.9	6.4	4.1	2.3	
品質(検査等級)	3上	2下	-	3中	3中	-	

注) 平年値は、前8か年中平成11年、13年および再播した10年を除く5か年の平均。

事 由：植付は平年より8日遅い5月18日に行った。萌芽期は植付の遅れを反映して「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年より7日遅かった。萌芽後は、かんばつ傾向で茎長の伸長が抑えられたが、高温で推移したことから開花始は平年より「男爵薯」で1日、「コナフブキ」で2日早かった。その後、7月以降は適度な降水があったことから茎長が伸長し、「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年を5cm上回った。枯凋期は平年より「男爵薯」で5日、「コナフブキ」で3日遅くなった。夏場の十分な降水と日照及び枯凋期の遅れにより、早生の「男爵薯」では塊茎の肥大が順調に進み、上いも重は平年比125%となった。中晩生の「コナフブキ」は萌芽の遅れに加え、茎長の伸長停止が遅れたことから塊茎の肥大は遅かったが、8月下旬以降順調に肥大し、上いも重は平年比97%となった。でん粉価は初期肥大の遅れと、8月上旬の高温の影響を受け、「男爵薯」で0.4ポイント、「コナフブキ」で0.6ポイント平年を下回った。その結果、「コナフブキ」のでん粉重は平年比94%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月日)	5.18	5.10	8	5.18	5.10	8	
萌芽期 (月日)	6.6	5.30	7	6.7	5.31	7	
開花始 (月日)	6.29	6.30	△1	6.28	6.30	△2	
枯凋期 (月日)	9.11	9.6	5	10.9	10.6	3	
茎長(cm)	(6月20日)	8.6	18.6	△10.0	7.4	19.1	△11.7
	(7月20日)	41	37	4	63	66	△3
	(8月20日)	43	38	5	81	76	5
茎数(本/株)	(6月20日)	2.5	3.3	△0.8	2.5	2.6	△0.1
	(7月20日)	2.7	3.5	△0.8	3.0	2.8	0.2
	(8月20日)	2.2	3.4	△1.2	2.5	2.8	△0.3
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	3968	4036	△68	3096	3607	△511
	(9月20日)	-	-	-	4527	4346	181
でん粉価(%)	(8月20日)	15.1	16.3	△1.2	19.8	21.9	△2.1
	(9月20日)	-	-	-	21.1	23.5	△2.4
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	-	-	-	908	974	△66	
上いも数(個/株)	8.9	9.6	△0.7	8.2	9.5	△1.3	
上いも1個重(g)	132	96	36	126	110	16	
上いも重(kg/10a)	5227	4182	1045	4606	4761	△155	
同上平年比(%)	125	100	25	97	100	△3	
でん粉価(%)	15.6	16.0	△0.4	22.5	23.1	△0.6	
でん粉重(kg/10a)	-	-	-	990	1053	△63	
同上平年比(%)	-	-	-	94	100	△6	

注) 平年値は前7か年中、平成10年、15年を除く5か年の平均。

事 由：移植栽培の播種期は平年より4日早い3月22日に行った。直播栽培の播種ならびに移植栽培の移植は、5月上旬の天候不順のために、平年より5日遅れの5月18日に行った。その後も低温と乾燥が続いたため、初期生育は平年よりやや劣った。しかし、6月の好天で生育は急速に回復し、7、8月の高温時の降水量も平年並であったため、強い乾燥ストレスを受けずに順調に地下部は肥大した。登熟期間中は、降水量が少なく経過した上に、最低気温はほぼ平年並に推移したため、根中糖分の蓄積にも良好な条件であった。収穫は平年並の10月19日に行い、移植栽培の糖量は2品種平均で平年比121、直播栽培も平年比117と非常に良好な作柄であった。

以上のことから、今年の作況は「良」である。

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月日)	322	326	△4	322	326	△4	5.13	5.7	6
移植期	(月日)	5.13	5.8	5	5.13	5.8	5	-	-	-
出芽期	(月日)	-	-	-	-	-	-	5.23	5.18	5
収穫期	(月日)	10.19	10.20	△1	10.19	10.20	△1	10.19	10.20	△1
草丈(cm)	(6月20日)	26.6	27.2	△0.6	26.1	28.1	△2.0	14.3	15.0	△0.7
	(7月20日)	58.3	54.9	3.4	54.4	53.1	1.3	54.5	51.6	2.9
	(8月20日)	65.8	62.1	3.7	59.2	59.2	0.0	65.9	65.8	0.1
	(9月20日)	68.4	63.3	5.1	62.8	59.1	3.7	69.5	67.6	1.9
生葉数(枚)	(6月20日)	11.7	12.2	△0.5	11.0	11.6	△0.6	6.7	6.9	△0.2
	(7月20日)	21.4	21.6	△0.2	19.7	21.1	△1.4	21.7	20.1	1.6
	(8月20日)	26.0	27.8	△1.8	25.9	26.8	△0.9	25.3	25.5	△0.2
	(9月20日)	28.3	31.0	△2.7	26.7	29.6	△2.9	27.7	28.8	△1.1
茎葉重(g/個体)	(6月20日)	106	114	△8	92	111	△19	14	17	△3
	(7月20日)	676	624	52	625	622	3	543	514	29
	(8月20日)	1079	876	203	914	925	△11	1002	925	77
	(9月20日)	913	878	35	878	908	△30	829	970	△141
根重(g/個体)	(6月20日)	18	22	△4	16	23	△7	1	2	△1
	(7月20日)	311	243	68	334	271	63	167	129	38
	(8月20日)	754	517	237	735	574	161	529	398	131
	(9月20日)	882	793	89	925	828	97	780	670	110
根周(cm)	(7月20日)	22.7	20.8	1.9	23.7	22.6	1.1	18.8	16.4	2.4
	(8月20日)	31.5	27.1	4.4	32.3	29.8	2.5	27.3	24.5	2.8
	(9月20日)	33.5	32.2	1.3	36.2	33.8	2.4	30.7	29.1	1.6
根中糖分(%)	(9月20日)	15.69	15.30	0.39	16.08	15.30	0.78	15.16	14.30	0.86
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)	4976	5665	△689	5191	5595	△404	4914	5959	△1045
根重(kg/10a)	(収穫期)	7083	6085	998	7187	6450	737	5946	5399	547
同上平年比(%)		116	100	16	111	100	11	110	100	10
根中糖分(%)	(収穫期)	18.17	17.19	0.98	18.84	17.61	1.23	18.00	16.93	1.07
同上平年比(%)		106	100	6	107	100	7	106	100	6
糖量(kg/10a)	(収穫期)	1287	1043	244	1354	1133	221	1070	914	156
同上平年比(%)		123	100	23	120	100	20	117	100	17

注) 平年値は前7か年中、直播「モノホマレ」は平成11年、16年、移植「モノホマレ」は平成10年、16年、「アーベント」は平成10年、16年をそれぞれ除く5か年の平均。

1-1) 牧草

作況：不良

事由：萌芽期は平年並であったが、冬枯程度は平年よりやや高かった。5月が低温に経過したこと
から出穂始・出穂期は平年より4～5日遅れた。1番草～3番草の乾物収量の平年比は、それ
ぞれ86%、71%、89%といずれも平年を下回り、年間合計乾物収量の平年比は83%であった。
これは、冬枯れにより基数が平年より減少したことに加え、2番草および3番草の再生期に当
たる6月下旬および8月中旬がいずれも高温少雨に経過したことにより、湿潤を好むチモシー
の再生が不良になったためと考えられる。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	ノサップ			
	本年	平年	比較	
萌芽期 (月日)	4.17	4.16	1	
冬損程度	2.0	1.0	1.0	
被度 (%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	99	1
出穂始 (月日)	6.14	6.10	4	
出穂期 (月日)	6.20	6.15	5	
出穂程度 1番草	5.5	6.3	△ 0.8	
節間伸長程度 2番草	4.0	3.5	0.5	
刈取日	1番草	6.21	6.17	4
	2番草	8.10	8.6	4
	3番草	10.6	10.6	0
倒伏程度 1番草	1.5	2.7	△ 1.2	
病害罹病程度	1番草	1.5	1.3	0.2
	2番草	3.0	3.5	△ 0.5
	3番草	4.3	4.5	△ 0.3
草丈(cm)	(5月18日)	29	43	△ 14
	(6月5日)	66	77	△ 11
	1番草	100	95	5
	2番草再生時	33	38	△ 5
	2番草	64	70	△ 6
	3番草再生時	54	38	16
	3番草	57	41	16

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
生草収量(kg/10a)	1番草	2254	2843	△ 589
	2番草	858	1286	△ 428
	3番草	480	851	△ 371
	合計	3592	4980	△ 1388
乾物率 (%)	1番草	25.4	24.2	1.2
	2番草	23.0	22.0	1.0
	3番草	34.0	21.7	12.3
乾物収量(kg/10a)	1番草	573	664	△ 91
	2番草	198	279	△ 81
	3番草	162	182	△ 20
	合計	933	1124	△ 191

注) 平年値は前3か年の平均(耕種概要・調査項目が大幅に変更されたため)。
冬損程度は1:無または微～9:甚。

事 由：播種は、「改良オホーツク1号」では平年より8日早い3月4日、「スーパー北もみじ」では2日早い3月10日に行った。播種後は平年並の気温で推移し、出芽期は「改良オホーツク1号」では平年より10日早い3月15日、「スーパー北もみじ」では平年並の3月25日であった。育苗期間中はやや低温に推移したが、苗生育は概ね順調であった。移植は、「改良オホーツク1号」では平年より9日早い5月6日、「スーパー北もみじ」では4日早い5月11日に行った。移植時の苗質は概ね平年並であった。5月下旬まで気温が平年を下回り、6月上旬まで降雨がほとんどなく、やや干ばつ傾向が続いたが、6月上旬以降気温が高く経過したこともあり、初期生育は概ね平年並であった。その後は、気温が7月上旬は低温傾向であったものの、6月下旬および7月中旬以降は平年より高く推移し、適度な降水もあった。このため生育は順調に進み、球肥大期は平年に比べ「改良オホーツク1号」で8日、「スーパー北もみじ」で3日早かった。倒伏期は、「改良オホーツク1号」では平年より2日早い8月3日、「スーパー北もみじ」では5日早い8月10日であった。生育期間を通じて茎葉の生育は旺盛で、葉先枯れ等の被害、病害の発生はほとんどなかった。平均一球重および総収量は両品種とも平年をやや上回ったが、変形球などの発生が多く規格内率が平年を下回ったため、規格内収量はほぼ平年並となった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.4	3.12	△ 8	3.10	3.12	△ 2	
出芽期 (月.日)	3.15	3.25	△ 10	3.25	3.28	△ 3	
移植期 (月.日)	5.6	5.13	△ 7	5.11	5.14	△ 3	
球肥大期 (月.日)	7.3	7.11	△ 8	7.19	7.22	△ 3	
倒伏期 (月.日)	8.3	8.5	△ 2	8.10	8.15	△ 5	
枯葉期 (月.日)	8.19	8.25	△ 6	9.2	9.13	△ 11	
収穫期 (月.日)	8.29	9.13	△ 15	9.6	9.21	△ 15	
草丈(cm)	(5月20日)	24.1	25.8	△ 1.7	19.2	23.8	△ 4.6
	(6月20日)	36.5	33.2	3.3	35.6	31.6	4.0
	(7月20日)	75.6	65.7	9.9	80.8	74.4	6.4
生葉数(枚)	(5月20日)	3.2	3.1	0.1	3.0	3.0	0.0
	(6月20日)	5.6	5.0	0.6	5.2	5.4	△ 0.2
	(7月20日)	9.5	8.6	0.9	10.2	10.2	0.0
葉鞘径(mm)	(5月20日)	4.4	4.2	0.2	4.2	3.9	0.3
	(6月20日)	7.5	8.9	△ 1.4	7.2	8.5	△ 1.3
	(7月20日)	18.6	18.1	0.5	19.7	19.9	△ 0.2
葉身生重(g)	(7月20日)	94.7	80.9	13.8	122.6	96.5	26.1
球生重(g)	(7月20日)	103.1	64.3	38.8	55.5	40.0	15.5
球生重(g)	(8月20日)	225.4	228.7	△ 3.3	264.6	240.6	24.0
葉身乾物率(%)	(8月20日)	-	9.0	-	9.1	11.4	△ 2.3
総収量(kg/10a)		6906	6680	226	8366	8150	216
規格内収量(kg/10a)		5967	6065	△ 88	6759	6960	△ 201
同上平年比(%)		99	100	△ 1	97	100	△ 3
規格内率(%)		86	93	△ 7	81	85	△ 4
平均一球重(g)		218	211	7	267	258	9

注) 平成15年に圃場を変更したため、平年値は平成15年及び16年、2力年の平均。